

(左下から右上へ) 湿増と弁慶の像、弁慶まつり、闘鷄神社参道入り口



## 熊野古道

くもくじ  
記

48

世界文化遺産の「紀に中辺路の四つの峠、伊山地の靈場と参詣大辺路の三つの坂など」道(2004年登録)と共に闘鷄神社(田辺)

市湊)が昨年10月、追加登録された。紀伊田辺駅で下車し、再度訪ねた。

闘鷄神社はこれまで

「弁慶まつり」の起点と

しての印象が強かつた。3年ほど前、田辺観光ボランティアガイド

源平合戦の治承・寿永の乱に因んだ祭りかと思ひきや、田辺市商工会議所がまちづくりのために企画した催事と

こと。メインの「よさこい踊り」は各地から

参加した52チームが、闘鷄神社を出発して海

岸までアオイ通りを踊

ることになった。社地の鶏

を7羽ずつ紅白にわけて闘わせ、赤が勝った

白の鶏を戦わせ決める

こととした。社地の鶏

を7羽ずつ紅白にわけて闘わせ、赤が勝った

白の鶏を戦わせ決める

こととした。社地の鶏

を7羽ずつ紅白にわけて闘わせ、赤が勝った

白の鶏を戦わせ決める

こととした。社地の鶏

を7羽ずつ紅白にわけて闘わせ、赤が勝った

白の鶏を戦わせ決める

こととした。社地の鶏

を7羽ずつ紅白にわけて闘わせ、赤が勝った

白の鶏を戦わせ決める

## 勝運の神様としての信仰も

り歩く、ストリートダンスだった。そのあふれるエネルギーを観光客ももうい、興奮のひと時を過ごした。夕刻は地元の人たちによる「ゲタ踊り」があり、「踊り一色」の祭りという印象が強かった。

今回の訪問で闘鷄神社の印象は変わった。

最初、田辺宮と称さ

れた神社は三十六歌仙

の一人、藤原実方の子

白の勝ちを見届けて、弁慶(湿増の子と言われてる)を先頭に、総勢2000人、200艘余の熊野水軍を率いて壇の浦に出陣、源氏の勝利に貢献したといふ。

いう。

以降、勝運の神様と

して信仰され、闘鷄

式のことである。建仁

元(1201)年、後

鳥羽上皇の熊野詣でに

随行した歌人藤原定家は、前日から体調を崩す

精神性も興味深い。

して聞いたにも関わらず、先達たちの強い指

示で潮垢離をとった

闘離について地元の守世さんに弁慶まつりと市街地観光の案内をしていただいた事を思

い出す。弁慶まつりは

闘離に代えて引き

三山参詣を祭るよう

存在となる。湿快の子

になり、参詣者は道中

とある。

の会代表だった故畠上

孫・湿快が熊野別当の

白河法皇の時、熊野

は、相まって、熊野詣で

の巡礼文化が高まり、

弁慶まつりと違ったに

のもうなづける。

闘離と出立王子

の安全を祈願したり、

塘離について地元の

人に聞くと、「胸まで

浸かる」というから、

他国の宗教的な沐浴に通するものがある。近

くに出立王子跡がある

の大社の重みを感じた。

田辺の市街地エリア

は熊野の入り口・口熊

野と呼ばれ、中辺路の

参詣道に入る前に、海

岸で潮垢離をせねばな

らない。潮垢離浜跡記

念碑のそばの説明板に

よると「この付近一帯

は出立浜と呼ばれ、熊

野参詣人が潮垢離をと

った浜として知られて

いる。潮垢離は海水を

浴び、けがれを祓う儀

式のことである。建仁

元(1201)年、後

鳥羽上皇の熊野詣でに

求めて熊野を訪れる人

が増え、和歌山でも巡

初詣癒し求める無言

の手

秦華